

令和6年度予算のあらまし

令和6年度那珂川町一般会計予算は、8,900,000千円となり、前年度予算に対し、350,000千円増（4.1%増）となった。この主な要因は、第2期ケーブルテレビ施設光化整備事業への繰出金、小中学校体育館空調整備事業費、和見集会場駐車場整備事業費、移住定住促進事業として分譲宅地整備費の増額によるものである。

また、新規事業として、町民生活の効率性や利便性を高めるため、窓口支援システムや電子入札システム、子育て支援アプリを導入し、DXを推進していく。加えて、認定こども園の給食費を減額する事業や、町内商店街活性化のための地元消費喚起対策事業を実施する。

特別会計は、ケーブルテレビ事業特別会計及び後期高齢者医療特別会計で増額となったが、下水道事業特別会計及び農業集落排水事業特別会計が、公営企業会計となるため、特別会計の予算総額は5,820,000千円で、前年度予算に対し、219,000千円の減（3.6%減）となった。

ケーブルテレビ事業特別会計予算は、1,540,000千円で、光化整備事業費の増により、前年度予算に対し、160,000千円の増（11.6%増）となった。

国民健康保険特別会計予算は、2,060,000千円で、保険給付費の減により、前年度予算に対し、15,000千円の減（0.7%減）となった。

後期高齢者医療特別会計予算は、270,000千円で、後期高齢者医療広域連合への納付金の増により、前年度予算に対し、33,000千円の増（13.9%増）となった。

介護保険特別会計予算は、1,950,000千円で、事業の一部を重層的支援事業として、一般会計において実施することに伴い、前年度予算に対し、50,000千円の減（2.5%の減）となった。

水道事業会計予算は、687,200千円で、建設改良費の減により、前年度予算に対し、15,500千円の減（2.2%減）となった。

下水道事業特別会計及び農業集落排水事業特別会計は、下水道事業会計となり、その予算は、588,267千円で、引き続き施設の維持修繕工事等を行っていく。

これにより、一般会計及び各特別会計、水道事業会計並びに下水道事業会計の予算総額は、15,995,467千円となり、前年度予算と比較して、703,767千円の増（4.6%

増) となった。

一般会計における歳入の財源内訳、歳出の性質別内訳は、次のとおりとなった。

●歳入内訳

区 分	予 算 額	構 成 比	対前年度比
自 主 財 源	3,988,791千円	44.8%	12.0%増
依 存 財 源	4,911,209千円	55.2%	1.6%減

●歳出内訳

区 分	予 算 額	構 成 比	対前年度比
投 資 的 経 費	534,443千円	6.0%	8.8%減
消 費 的 経 費	5,526,822千円	62.1%	4.7%増
その他の経費	2,838,735千円	31.9%	5.7%増

歳入の構造の自主財源において、令和6年度は、人口減少の影響により、個人町民税を減額とした。また、ケーブルテレビ事業特別会計繰出金に光化整備事業分として合併振興基金を500,000千円（対前年度比200,000千円の増）繰り入れるほか、財源不足分に財政調整基金を繰り入れるなど、3,988,791千円（対前年度比427,552千円増、12.0%増）を計上した。依存財源について、普通交付税は、国の令和6年度臨時財政対策債概算要求額減少に伴い、現金交付分が増額すると見込み増額とした。町債については、町道改良舗装事業などに充当することとし、将来の財政負担に支障がないように過疎対策事業債などの有利な起債を活用する。また、財源補てんに充当する臨時財政対策債については、国の令和5年度概算要求額減少を踏まえて、50,000千円を計上した。この結果、依存財源は、4,911,209千円（対前年度比77,552千円減、1.6%減）となった。

歳出については、町民の負託に応えるため、事業の平準化に努めるとともに、創意工夫と柔軟な発想を持って、前例や既成概念にとらわれず、必要性、緊急性、費用対効果を検証し、予算を編成したところである。第2期ケーブルテレビ施設光化事業費の増や、各小中学校の体育館空調整備事業費などにより、対前年度比350,000千円増、4.1%増の予算となるが、「第2次那珂川町総合振興計画後期基本計画」及び、「那珂川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げた各種施策を着実に推進していくための予算を措置した。